

小野ゼミの思い出

第7期ゼミ長 氏田 宗利

僕は、文章を書くとき、特にこういったエッセイ形式の文章を書くときには、決まって、タイトルは全て文章を書き終わった後に考えて、書く。できれば、少し小生意気なタイトルを、と思う。しかし今回は違う。「小野ゼミの思い出」——このどこにでもありそうなタイトル。だが、このエッセイを書くにあたっては、どうにもこのタイトルがピッタリくるように直感した。

「思い出」とは、僕は、その時の情景が鮮明に思い返せるものをいうと思う。それが、いつ、どういった場面で、誰から発せられ、そして、僕が何を感じたのか。そういったことが鮮明に思い返せるものをいうと思う。「小野ゼミの思い出」と言った時に、僕が最初に思い浮かべるのは、以下のような光景である。

それは、僕達7期生が3年生の3月。入ゼミの準備に追われている時。先生と、メディアの前でお話する機会があった。僕がその時に何を言ったかは定かには覚えていない。でも気持ちとしては、入ゼミの準備にあたって、用意すべき資料（例えば、小野ゼミでの過ごし方といったパンフレットや年間行事予定、今後の課題の説明資料など）で、昨年からあるものは「そのまま」使えばいい、と考えていた。そんな思いを直接言葉にしたのか、それとも、僕の何らかの言動から先生が推測されたのか、先生は、「ああいう資料を最初に考えて作った、君たちの先輩の問題意識っていうのは、すごいものと思わないかい？」とおっしゃった。言外に「だから君たちも、過去のを『そのまま』使うのではなく、常に変えていくという姿勢を持つべきだ」とのニュアンスが感じられた。

僕はこの時の言葉が相当に衝撃的だったのか、今でも、いや、小野ゼミから離れ「仕事」というものに取り組み今だからこそ、心の中で相当に反響しているように思う。

「仕事とは、」弊社の会長は言う。「駅伝みたいなものだ」と。「各人が与えられた持ち場で、最大限自分の個性を発揮して、区間新記録を出すように頑張ることだ」と。そして、「襷を次の人につなげていく。」

僕達社会人1年目がする仕事など、何か新しいことということはほとんどなく、基本的には先輩から引き継いだ仕事だ。そこには、既成のやり方なるものが存在し、それを先輩から学ぶ。この既成のやり方そのものを学ぶことが仕事だったりするのだから、仕事はやっかいなものだとも思う。でも、僕が言いたいことは、こうした既成のやり方なるものが存在する仕事で、社会人1年目がするような、社会的なインパクトが相対的に小さい、もしくは、「私」でなくてもできるという意味で代替が効く仕事におけるおもしろさとは、極めて自分次第であるということだ、僕の先輩はそれを「工夫のしどころ」だという。つまり、仕事とは、既成のやり方そのものを変えていくプロセスそのものがおもしろかったりするのだ。「そのもの」ばかりで頓珍漢な文章だが、要は、問題意識をもって取り組むこと、もっとうまくできないものかとあれ

これ考えることが、仕事を幾何学におもしろくする。

そして、そういった姿勢、つまり問題意識をもって「変えてやろう！もっと良くしてやろう！！」と仕事で意気込む姿勢っていうのは、ゼミでの行動そのものと相似形をなすのではないか。こう考えると、学生生活と仕事というのは、断絶というよりも連続性の方が圧倒的に大きい。ということは、「仕事」というある種の連続性の中を生きる社会人はもちろん、今後「学生生活」から「仕事」への表面的な断絶を経験する学生にこそ、将来を既定する「今」の大切さというものが出てくるのではないかと浮き上がってくるのではないかと。

ここまでキーボードを叩くと、最初に考えたタイトルが、どうにもこのエッセイのテーマにフィットしていないような感じがしないでもないが、ここは、「エッセイ=随筆、随想」の本来の意味である「想いに随う」というところに準じて、そのままにしておきたい。



第2回オープンゼミにて、OB・OG講演をする著者

◆現役生の皆様へ

先日は、第2回オープンゼミにご招待いただきありがとうございます。気の利いたことを言えたかどうかは、皆様の判断にお任せしますが、せっかくお話したのに伝わってなければ悲しいので、ここでさらいしておきます。

仕事とは、社会に存在する問題を解決することである。

その問題解決の仕方には、プロセス、もしくは「型」がある。

その「型」とは、「where ⇒ why ⇒ how」である。

これは、小野ゼミのケース・スタディの「現状分析⇒問題抽出⇒戦略策定」というプロセスと合致する。

だから、小野ゼミでの学びは、社会に出ても役に立つ。

といったことでした。そんなことを、あの「体調の悪い友人に声をかける話」で言いたかったのです。皆様も、自分の今の状況をメタ認知、もしくは俯瞰する、簡単に言えば、少し離れて見てみる時間を設けてみたらいいと思います。Good Luck ;)